

令和4年7月7日
(資料提供)

(事務担当) 所属名：農林総合研究センター 農業試験場 総合研究部 病害虫防除室 直通：257-6972

令和4年度病害虫発生予報第4号について

今後発生が予想される水稲、大豆、果樹、野菜・花きの病害虫の発生量や防除上の注意事項について掲載します。

1 予報期間 7月中旬～8月上旬

2 予報内容

(1)水 稲

斑点米カメムシ類の発生は**多**と予想される。出穂後の好天により水田侵入が助長されるので、防除を徹底し、斑点米の発生防止に努める。【病害虫発生予察注意報第1号（令和4年7月7日付）参照】

紋枯病の発生は**やや多**と予想される。発病を確認した場合、直ちに防除を実施する。

ツマグロヨコバイの発生は**やや多**と予想される。今後の発生状況に留意するとともに、基幹防除を徹底する。

(2)大 豆

ウコンノメイガの発生は**やや多**と予想される。7月6半旬に1茎あたり葉巻数が6個を超えた場合、直ちに防除する。

アブラムシ類の発生は**やや多**と予想される。抵抗性の発達を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

(3)果 樹

リンゴ斑点落葉病の発生は**やや多**と予想される。降雨前後の薬剤防除を徹底する。

ハダニ類の発生は**多**と予想される。抵抗性の発達を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。発生源となる下草を刈り取った後に防除する。

カメムシ類の発生は**やや多**と予想される。発生を認めた場合は直ちに防除する。

(4)野 菜（さつまいも、やまのいもを含む）

軟腐病の発生は**多**と予想される。作業中は作物を傷つけないように注意するとともに、害虫防除を徹底する。

スイカつる枯病の発生は**やや多**と予想される。ほ場の排水に努め、降雨前後の防除を徹底する。

ネギ黒斑病の発生は**やや多**と予想される。降雨前後の防除を徹底する。

ハダニ類、アザミウマ類の発生は**多**と予想される。抵抗性の発達を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

コガネムシ類の発生は**多**と予想される。防除適期は7月下旬から8月上旬である。

アブラムシ類の発生は**やや多**と予想される。抵抗性の発達を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

オオタバコガの発生は**やや多**と予想される。若齢幼虫の防除を徹底し、施設栽培では、開口部に寒冷紗等を設置して成虫の侵入を防止する。

※ 病害虫防除の実施に当たっては、最新の農薬使用基準を確認し、遵守する。

【参考資料】

はんでんまい
カメムシ類による斑点米について

1 斑点米とは

カメムシ類が稲のモミを吸汁することにより米粒に吸い跡(吸汁痕)が残り、斑点米と呼ばれる被害が発生します。

斑点米が米粒中に0.1%を超えて混入すると、検査等級が2等以下に格付けされ、生産者の収入が減少します。



斑点米

2 斑点米カメムシ類の生態について

カメムシ類は植物の種子を吸汁しており、雑草地や水田等を移動しています。

7月上旬頃までは、主に雑草地に生息して数を増やし、その後水田にも侵入して斑点米を発生させます。

斑点米カメムシ類は、歩いて水田に侵入する「歩行性カメムシ類」と、稲の穂が出ると飛んで水田に侵入する「飛翔性カメムシ類」に分けられます。

<飛翔性カメムシ類>

アカスジカスミカメ、アカヒゲホソミドリカスミカメ、クモヘリカメムシ、ホソハリカメムシ等

<歩行性カメムシ類>

トゲシラホシカメムシ、オオトゲシラホシカメムシ、コバネヒョウタンナガカメムシ等



アカヒゲホソミドリカスミカメ
(飛翔性カメムシ類)



アカスジカスミカメ
(飛翔性カメムシ類)



トゲシラホシカメムシ
(歩行性カメムシ類)

3 被害防止対策

出穂7～10日後と14～17日後の2回の防除を徹底する。